ガソリン携行缶を用いたガソリンの安全な取扱いについて

ガソリンの特徴

① マイナス 40 度の環境下でも、火源があれば引火します。
② 蒸気は空気より約３～４倍重いため、低所で広い範囲に滞留しやすい。
③ 静電気を発生しやすい。

貯蔵・取扱い時の留意事項

・ガソリンの噴出に注意する。
・直射日光の当たる場所や高温の場所で保管しない。
（日陰の通気性の良い場所などに保管する）
・周囲の安全を確認する。
（火源になりそうなものがないか、エンジンは切られているかなどを確認）
・フタを開ける前にエア抜きをする。
・ガソリン使用機器の取扱説明書等に記載された安全上の留意事項を守る。
・みだりに取り扱われないようしっかり管理する。

ガソリンの貯蔵に適した容器の例

ガソリンの貯蔵に適さない容器の例
（樹脂製容器は火災危険性が高い）

ガソリンは危険性が高いため、充分に注意して取扱いましょう！